

2014.12.8 (A)

# 遺産110億円申告漏れ

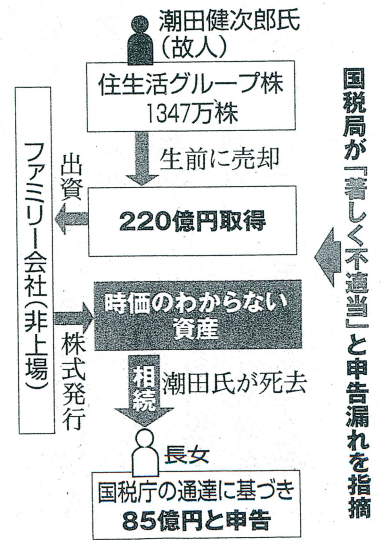
## 東京国税局指摘

# トステム創業者遺族

住宅建材大手トステムの創業者で2011年に死去した住生活（現LIXIL）グループ元会長、潮田健次郎氏（当時84）＝東京都新宿区＝の長女が東京国税局の税務調査を受け、相続財産について約110億円の申告漏れを指摘されたことが分かった。潮田氏の資産約220億円が非上場の不動産管理会社に移され、資産の価格が6割近く少なくなったと判断されたとみられ、過少申告加算税を含む追徴税額は約60億円に上るといふ。

有価証券報告書や関係者によると、潮田氏は住生活グループの筆頭株主として保有していた約1347万株を売却し、約220億円を得た。この資産は10～11年、潮田氏のファミリー会社で非上場の不動産管理会社（新宿区）に出資され、同社はその分の約790万円を発行。この結果、潮田氏が保有した同グループの上場株は、時価がわからない非上場会社の株式に交換されたという。

### 相続財産をめぐる巨額の申告漏れの構図（国税局の指摘による）



国税局が「著しく不相当」と申告漏れを指摘

この取引直後の11年4月に、潮田氏は死去。長女は潮田氏が所有する不動産管理会社の株式を相続した。相続税法では、時価がわからない株式や土地などから財産評価基本通達に基づいて評価する。非上場株は事業内容が類似する上場企業の株価などから算出するとされており、長女はこれに

基づき、相続財産を約85億円と評価して申告した。これに対し、国税局は一連の取引によって、約220億円の資産額が短期間に約85億円に減ったと判断。「一通達通りに評価すると極端に低額となり、著しく不相当」と認定した。そのうえで通達中の別の規定を適用し、国税庁長官の指示

2014.12.9

# 百数十億円申告漏れ

## 旧トステム創業者の長女

### 遺産相続で指摘

東証1部上場で建材・住設機器最大の旧トステム（現LIXIL）グループの創業者で、2011年4月に死去した潮田健次郎氏の長女側が東国国税局の税務調査を受け、相続した遺産の株式評価額を巡り、百数十億円の申告漏れを指摘され

を受けたが、期限内に異議申し立てせず、既に全額納付したとされる。関係者によると、潮田氏は生前、保有していたグループ株の売却で得た資金で金融資産を購入し、資産管理会社（非上場）に現物出資。長女側は潮田氏の死去後、管理会社

株を相続したという。この際、長女側は管理会社株の価値について同種企業の株価を基準に算定し、百億円未満の評価額と申告。しかし、国税局は約2倍の数億円の価値があると判断し、申告漏れを指摘したという。

で、大手監査法人に株式の鑑定を依頼。その結果を踏まえて資産額を算定し直したという。長女は国税局の更正に対し、異議を申し立てなかったとみられる。朝日新聞は長女に3回会い、書面でも再三取材を申し込んだが、長女からは回答を得られなかった。相続に関わったとされる税理士は取材に「守秘義務があり、回答できない」と答えた。潮田氏はトステムを国内最大のサッシメーカーに育て、01年には住宅設備大手INAXとの経営統合を主導し、国内最大級の総合住宅設備メーカーを誕生させた。（村上潤治、水沢健一）